

調査事例紹介：その35 野村廣太郎と写真のデジタル化



豊中市立図書館には、毎日いろいろな調査の依頼が届きます。

そのうちの一部をご紹介します。

Q. 豊中ゆかりの画家・野村廣太郎は自身の作品「なにわ百景シリーズ」54点を豊中市に寄贈したそうだが、現在市内でこれらを見られるところはあるか。

A. 「なにわ百景シリーズ」とは画家・野村廣太郎が明治・大正期の大阪風俗を描いてきた作品群。昭和63年にシリーズのうち54点が市に寄贈された。現在、市内に常設展示している場所はない。市が所蔵している野村廣太郎の作品一覧は『新修豊中市史 第6巻 美術』に掲載されている。また図書館では画集、『明治・大正 大阪百景』（保育社）、『明治・大正 なにわ百景』（野村 廣太郎）、『おおさか百景 いまむかし』（東方出版）を所蔵。

Q. 幼少時のフィルム写真をパソコンにとりこみ、プロフィール動画として大画面に映して使いたい。役立つ本はあるか？

A. 写真のデジタル化や画像加工に関する以下の本などをご紹介します。『思い出の写真永久保存完全マニュアル』（東洋経済新報社）、『ビデオ レコード 写真 本を簡単に「デジタル化」する』（笠倉出版社）、『デジタル保存丸わかり』（日経 BP 社）、『思い出をデジタル化する本』（宝島社）、『フィルム派カメラマンのためのスキャナー入門』（学研）、『食わず嫌いのための逆引きフォトタッチ術』（日本カメラ社）。

これらの事例について詳しく知りたい方は、豊中市立図書館のサイトの「レファレンス事例をさがす」のページから、フリーワード「野村広太郎」、「デジタル化」で検索してみてください。